



令和5年5月2日

宮崎県内でネコのマダニ媒介性人獣共通感染症「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」が急増中

- ・令和5年4月だけで宮崎県内のネコのSFTSを5例診断（2023年4月30日現在）
- ・県内のネコのSFTS増加はSFTSウイルスを保有するマダニの増加を示唆
- ・ヒトとペットのマダニ対策が重要

宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターでは、獣医師からの依頼で伴侶動物（イヌ・ネコ）のSFTSウイルス検査（リアルタイムRT-PCR法）を実施しています。これまでは0～1例/月程度の発生でしたが、令和5年4月に宮崎県内のネコで5件（宮崎市で3件、都城市で1件、川南町で1件）のSFTSウイルス感染を確認しました。このことは、県内でSFTSウイルスを保有するマダニが増加していることを示唆します。そのため、草木に触れる機会がある際は肌の露出を控える、マダニ忌避成分（ディート、イカリジン）が含まれるスプレーを使用するなどのマダニ対策をしてください。また、イヌ・ネコに対してのマダニ対策（駆除薬の使用、外飼いを控える、こまめなブラッシング）も推奨します。

【SFTSとは？】

SFTS（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome, 重症熱性血小板減少症候群）は、SFTSウイルスの感染を原因とするヒトの致死率が10-27%、ネコの致死率が約60%のマダニ媒介性人獣共通感染症です。2013年に国内で初めて報告されて以降、西日本を中心に、毎年70人以上の発症が報告されています。特に宮崎県は患者発生数が多い地域です。伴侶動物（ネコ、イヌ）の感染も多数報告されており、ネコは重症化しやすいことが知られています。

SFTSウイルスは主にマダニの吸血により感染します。そのため、マダニに吸血されないようにすることが重要です。具体的には、定期的なマダニ駆除薬の使用とともに、ブラッシング、そしてネコの適性飼育（屋内飼育）の徹底が有効と考えられます。

【宮崎大学の取り組み】

上記のような伴侶動物（イヌ、ネコ）へのSFTSの重症化を防ぐには、早期診断が重要です。宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターでは、動物のSFTSウイルスのPCR診断を実施しています。伴侶動物がマダニに吸血されて体調に異変があった際は、早めにかかりつけの動物病院を受診してください。また、小動物臨床獣医師で、SFTSを疑う動物（元気・食欲喪失、発熱、黄疸、血小板数減少など）に遭遇した場合は、飼い主に注意喚起するとともに、下記までご相談ください。

～実施している取り組み～

- ・宮崎県獣医師会との連携による獣医師、飼い主むけの啓発セミナー
- ・SFTS感染動物簡易隔離用シェルター開発のためのクラウドファンディング事業「SFTSから猫と人を守るためのシェルターを作製したい！！」
- ・医学・獣医学連携によるSFTSの病態解明及び予防・治療などの研究開発

<研究に関する問合せ先>

宮崎大学 産業動物防疫リサーチセンター
教授 岡林 環樹
TEL : 0985-58-7575
e-mail : okbys81@cc.miyazaki-u.ac.jp

<取材に関する問合せ先>

宮崎大学 企画総務部総務広報課
TEL : 0985-58-7114
e-mail : kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp